

## 推 奨 実 践 事 例

事例番号 5-1

### 課題を見だし、主体的に当番活動に取り組む子どもの育成 — 委員会活動の実践より —

新潟県新潟大学教育学部附属小学校 八子正彦

実践テーマ	課題を見だし、主体的に当番活動に取り組む子どもの育成 ～委員会活動の実践より～
実践区分 ○囲み	学級活動・ホームルーム活動 <b>児童会・生徒会活動</b> クラブ活動 学校行事 その他(具体的に、 )
実践事例の 背景、ねらい、 意義など	<p>「小学校学習指導要領 特別活動編」には、児童会活動の内容が次のように定められている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>＜特別活動 第3章 第2節児童会活動 2児童会活動の内容＞ 児童が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見だし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること。</p> </div> <p>小学校では、委員会活動が常設されていることがほとんどである。毎年同じ委員会が設置されるため、特に当番活動においてはその内容が見直されることは少ない。そのため、子どもが課題意識をもたずに、単に決められたことを行うだけの活動になっていることが多い。すると、子どもは意欲的に取り組むことができず、当番の仕事を忘れても平気だったり教師に促されて慌々仕事をしたりする子どもが出てくる。これでは、子どもが主体的に取り組んでいるとは言えない。</p> <p>この原因は、教師が課題を与えていたことにある。「汚れているから掃除をしましょう」「挨拶がよくないので、改善する内容を考えてください」などと、教師から見た問題をそのまま与えていた。本実践では、委員会の当番活動について、教師が子どもに課題を見いださせるための働き掛けを行った。子どもが自ら課題を見いだすことで、当事者意識をもって当番活動に取り組む姿を目指した。</p>
実践の時期	平成30年4月より

## 【実践事例】

### 1 実践の概要

課題を見いだし、主体的に当番活動に取り組む子どもを育成するために、次の4つのステップで指導の改善を図った。

	教師の働き掛け	促される子どもの姿
① 目的の共有	委員会活動の意義や昨年度の課題を共有させる	集団の目標を設定する
② 見通し	目標を達成するために、各委員会でできることを考えさせる	目標を達成するために解決しなければならない問題点を探し、改善策を話し合う
③ 実行・課題解決	他者と協力しなければ解決できない課題に取り組ませる	他者と協力して課題解決に取り組む
④ 振り返り	視点を示して振り返らせる	目標に近付くことができたかを振り返り、新たな課題を見いだす

本実践では、特に「①目的の共有」「②見通し」の部分に重点を置いた。子どもが明確な課題を見いだすことができれば、主体的な姿を生むことができると考えたからである。

### 2 実践の実際

#### (1) 目的の共有

4月初旬に、高学年部（5・6年生）集会を開いた。

まず、6年生が、昨年度の委員会活動でどのような活動を行ったかを発表した。教師は、それを分類し、委員会活動にはみんなが快適に過ごすために必要な「当番的な活動（以下：当番活動）」と、学校をより元気に楽しくするための「創意工夫的な活動（以下：アイデア活動）」とがあることを確認させた。

次に、5年生に、学校にとってどちらの活動が大切だと思うかを問うた。それぞれの活動の意義を理解させるためである。5年生は、自分なりの意見を考えながら、よりよい学校づくりのためにはどちらも大切で欠かすことのできない活動であることに気付いた。

そして6年生に、昨年度は「当番活動」と「アイデア活動」のどちらに課題があったかを考えさせた。6年生は、様々なイベントを行ったことや、仕事を忘れていい加減にしたりしたことを思いだし、「当番活動」に弱さがあったことを振り返った。そして、今年度の委員会活動は「当番活動」の充実を図ることで、「みんなが気持ちよく過ごせる学校」を目指していくという目的を共有した。

**5年生に聞きます**

- 当番的な活動
  - ・やらなければならぬこと
  - ・決められていること
- 創意工夫を生かした活動
  - ・よみみんなが楽しくなる
  - ・学校が明るく元気になる

**学校にとって、どちらの活動が大切？**

このようなスライドを用いて考えさせた

## (2) 見通し

各学級で、委員会の所属を決めさせた。その後、各委員会の委員長で構成される委員長会議を開いた。委員長会議は、各委員会で解決できそうな学校の課題について委員長同士が話し合う場として設定した。

まず、「みんなが気持ちよく過ごせる学校」をつくるために、各委員長が自分の委員会で解決できそうな問題点を探して持ち寄り、当番活動として成立しそうか、ほかの委員会と仕事が重ならないかなどについて話し合った。その際、児童会担当の職員が同席し、子どもが見付けた問題点が委員会の当番活動で解決できるものかを助言した。さらに、問題点を見付けた視点の素晴らしさを褒めたり、問題点を委員会の課題として設定するには委員長の力が必要であることを伝えたりするなどして、委員長の意欲を高めた。

次に、各委員長に、委員長会議で話し合った問題点を自分の委員会で解決することを、委員会のメンバーに向けて提案させた。学校の問題点を、委員会の課題としてとらえさ

せるためである。各委員長は自分の委員会のメンバーに、学校の実態を写真で伝えたり、アンケートをとって明らかになった下級生の要望を示したりするなどして、可視化して伝えた。委員長は、分かりやすく伝えたり問題意識をもって受け止めてもらったりできるようにしたいという思いをもち、熱心に説明した。委員会のメンバーはその提案に対して、質問したりほかに解決できそうな問題点を指摘したりするなどして受け止めた。



委員長が iPad を活用するなどして問題点を可視化し、課題として提案した

委員長の提案を聞いた後、次のように述べた子どもがいた。

(A児…広報委員会の子ども)

ほくは、委員長の話を聞いて、確かに広報委員会でもっと頻繁に記事を更新しないと行けないと思った。実際に読んでくれている人がいるとは思わなかった。古い記事を読んでも、気持ちよく過ごせることにはならない。できれば毎日更新したいけど一人ではできないから、週に1回とか役割を決めて、それを当番活動にすればよい。

ここが、本実践のポイントである。今まで形骸化しやすかった当番活動について、教師ではなく委員長から提案させる。すでに委員長は、委員長会議で話し合ったことにより、自分の見付けた問題点を解決しなければよりよい学校づくりを実現できないという使命感をもっている。その委員長からの提案を聞いたり、提案を受けて質問したりすることで、子どもは少しずつ当事者意識を高めていくのである。

その後、各委員会で課題を解決するための当番活動や役割分担を決定した。

## (3) 実行・課題解決

各委員会で、話し合っただけで決めた課題の解決策に取り組みさせた。子どもは、自分たちの

活動が学校をよりよくするためのものであることを理解して、目的意識をもって活動に取り組んだ。

例えば、広報委員会では、昨年度は新聞が不定期に発行され、内容が古くなっても更新されなかったという反省があった。そのため、みんなにあまり記事を読んでもらえず、伝えたい情報を知ってもらえなかったという問題点があった。そこで、今年度は、新聞を掲示する場所や担当の曜日をはっきりと決め、毎日記事を更新するという活動を行った。そうすれば、新しい内容に興味をもってもらうことができ、多くの人に記事を読んでもらうことができると考えたからである。

#### (4) 振り返り

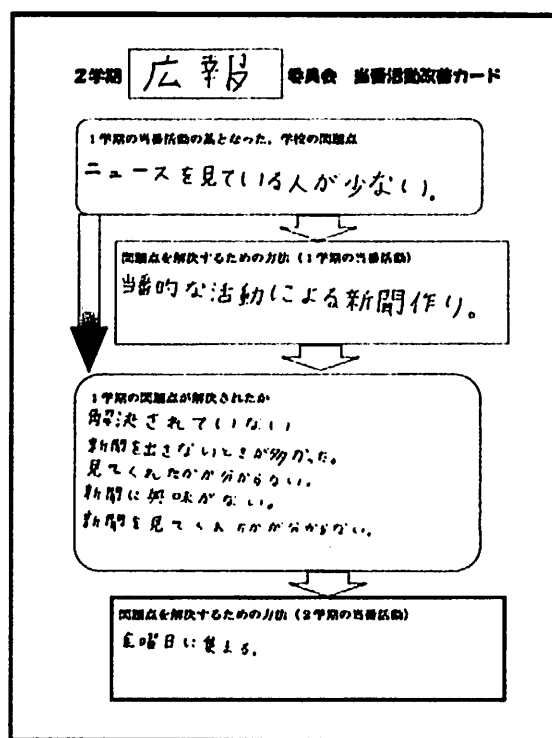
定期的に、自分たちの活動を振り返らせた。課題解決に向かっているかを確認させ、継続して目的意識をもたせるためである。その際、共通の振り返りシート（下図）を使用させ、振り返りの視点を明確化した。

振り返りの視点は、主に「活動の基となった課題が解決されているか」である。例えば「月曜日の人が当番の仕事をした」という振り返りだけでは、主体的な姿は生まれない。自分たちの活動の必要感を見いだすことができないからである。「新聞を出さないことがあったから、ニュースを見てもらえたとは言えない」などと活動の目的に立ち返らせた。そうすることにより、子どもは自分の委員会が行っている当番活動の目的をメンバーと再確認し、協力して課題を解決していくための方法を考えるなど、主体的に取り組んだ。

A児は、次のように振り返った。

(A児)

当番にしても、毎日欠かさず記事を更新することは難しいと思った。まだ習慣になってなくて、自分も忘れてしまうことがあった。金曜日みんなで集まって次の週の当番や内容を確認することになったから、忘れずに集まってみんなが読みたくなる記事を書いていきたい。



### 3 成果と課題

子どもの振り返りの中に、活動の目的に立ち返る内容があり、見いだした課題を意識して活動していることが分かった。また、その課題を解決するために、新たな取り組みを考える姿も見られ、当番活動に主体的に取り組む子どもの育成を促すことができた。これからは、高学年の子どもにアンケートを取るなどして、子どもの主体的な高まりを統計的にも分析していく。